

- distribution, *Jour. of Hydr.*, 90, 251-268.
- 清水 章・宝 馨・高棹琢馬, 1988: 対数正規分布の母数推定法の比較評価, 土木学会第43回年次学術講演会, II-1, 38-39.
- 寒川典昭・荒木正夫・船橋太道, 1988a: 情報と母数の数と最大エントロピー分布(その2), 土木学会第43回年次学術講演会, II-4, 44-45.
- ・—————・森 茂, 1988b: 1変数最大エントロピー分布の有効性の検討—他の分布との比較において—, 水文・水資源学会発表会, 30, 106-109.
- ・—————・大原基秀, 1987: 情報の与え方と最大エントロピー分布(その2), 土木学会第42回年次学術講演会, II-3, 36-37.
- ・—————・渡辺輝彦, 1986: 確率分布の推定母数の不確定性評価法, 土木学会論文集, 375 II-6, 133-141.
- 鈴木栄一, 1985: 気象, 気候における稀現象の解析, 天気, 32, 12, 3-19.
- 宝 馨・高棹琢馬, 1988: 水文頻度解析における確率分布モデルの評価規準, 土木学会論文集, 393 II-9, 151-160.
- 高棹琢馬・池淵周一, 1975: 降水観測がもたらす情報量とその観測網配置計画への応用, 土木学会論文報告集, 234, 83-95.
- 竹内邦良, 1980: 不確実性の定式化と分析—これらの動向から対処法も含めて—, ②水理・土工計画, 土木学会誌, 65, 9, 16-20.
- ・土屋一仁, 1988a: 正規分布, 対数正規分布およびピアソンⅢ型分布の PWM 解, 土木学会論文集, 393, II-9, 95-101.
- ・—————, 1988b: 正規分布および3母数対数正規分布の PWM 解の性能について, 土木学会論文集, 393, II-9, 103-112.

「熱帯降雨観測衛星 (TRMM) 計画」に関する研究会のお知らせ

衛星から熱帯域の降雨の定量的な3次元分布を観測しようとする TRMM (Tropical Rainfall Measuring Mission) 計画が, 日米共同研究として1996年8月衛星打ち上げを目指して着々と進行中です。現在, 日本側は衛星に搭載される降雨レーダーと衛星打ち上げに用いるH-IIロケットを, 一方, 米国側は打ち上げ衛星本体と可視近赤外放射計, マイクロ波放射計などを分担し, それぞれ宇宙開発事業団と米国航空宇宙局 (NASA) が中心となって研究開発が行われています。

本年7月, 宇宙開発事業団から, 「TRMM データを気象分野で有効に利用するための調査・検討」の委託が気象学会にあり, 7月25日の気象学会常任理事会で了承され, そのお世話を新田(勳)が行うことになりました。

TRMM 計画では, 衛星では初めて降雨レーダーが搭載されるとともに, 可視近赤外放射計, マイクロ波放射計などが搭載され, これら宇宙からのデータは気象分野の研究にとっても非常に貴重なデータとなることが期待されます。

つきましては, 気象学会秋季大会の翌日に, 以下のような研究会を計画しましたので, 興味をお持ちの方は奮ってご出席下さい。なお, 研究会ご出席の方には, 旅費の援助を考えていますので, 希望される方は下記の事務局 (気象研究所台風研究部 中沢哲夫) まで至急ご連絡

下さい。

日時: 10月26日 (土) 9時—12時 (気象学会秋季大会翌日)

場所: 名古屋大学水圏科学研究所会議室

内容: (1) TRMM 計画の概要, 経過 (新田)

(2) TRMM 計画に関する研究計画

2. 1 降水の気候学 (松本)
2. 2 熱帯の降雨システム (中沢)
2. 3 亜熱帯域の降雨システム (加藤)
2. 4 熱帯域熱源と大気大循環 (露木)
2. 5 大気大循環モデルの検証 (鬼頭)
2. 6 数値予報モデルの精度向上 (隈)
2. 7 熱帯降雨と植生 (田中)
2. 8 降雨量算出アルゴリズム (中村)
2. 9 グランド・トゥース計画 (住)

(3) 総合討論—今後の TRMM 計画研究の方向
データ処理体制

第2回 TRMM 研究会 (来年1月 or 2月)

*発表者は予定です。

TRMM研究会世話人 新田 勳 (気象大学校)

Tel (0471-44-7185) Fax (0471-46-1896)

事務局 中沢 哲夫 (気象研究所, 台風研究部)

Tel (0298-51-7111) Fax (0298-51-1449)

5. 今後への期待

地域の農業試験場は大多数が農学専攻者であるが、農業気象は理・工学専攻者が比較的に多い分野である。端的に表現すれば理・工学専攻者は生物や気象現象をシステムティックに、シンプルに視る頭脳と手法を持ち、農学専攻者は生物の総体的理解に優れ、作物育種の技術を持っている。一方、地球レベルでは環境変化・温暖化、農業サイドでは生態系調和型農業が叫ばれているが、いずれも生物の巧みな営みや気象の複雑な仕組みをよく理解し、応用することが一つの解決策であると思う。すなわち、専門や思考を異にする研究者が集まって共同研究や学際的研究、専門的研究を行うことが大切であり、また大きな成果も期待できる。是非農業研究機関に入って研究して頂きたい。願わくは植物が好きだったり、自ら水田に入って草取りをしたり、違う専門の研究者と議論したり、協調したりできる人を歓迎したい。そのような研

究者はいい研究をしているように私には思えるからである。

文 献

- 羽生寿郎, 内島立郎, 菅原 剛, 1966: Studies on the agroclimatological method for expressing the paddy rice products, Part 1. An agro-climatic index for expressing the quantity of ripening of the paddy rice, 東北農試研究報告, 34, 27-36.
- 井上君夫, 1990: 水田微気象予測システムの開発とその適用, 「農業生産管理システム構築のための情報処理技術の開発」研究成果, 農水省農研センター, 302-321.
- 一阿部博史, 1989: 久慈沿岸で観測される海霧の微気象特性, 東北農試研究報告, 81, 19-31.
- 片山 昭他, 1984: 北海道における海霧に関する研究, 科学技術庁研究調整局, 北日本太平洋沿岸地方における海霧と山背風に関する研究成果, 11-80.

研究会開催の案内

日本気象学会の秋季大会の前日に、「メソ気象研究会」と「大気-海洋相互作用研究会」を下記の要領で開催いたします。関心をお持ちの方は奮ってご参加下さい。

記

I. メソ気象研究会

- (1) テーマ: 「クラウドクラスター」, コンビナー: 藤吉 康志 (名大)
- (2) 日時: 1991年10月22日 (秋季大会前日), 13時~15時45分
- (3) 場所: 名古屋大学水圏科学研究所大会議室 (3階)
- (4) プログラム
 - ①高藪 縁 (環境研): 熱帯太平洋域における積雲活動の短周期変動一偏東風波動と混合ロスビー重力波一
 - ②岩崎博之 (名大水圏研): 衛星から見たメソスケール雲群の evolution とその特徴
 - ③森 一正 (気象研): 西部熱帯太平洋域のクラウドクラスターの内部構造とその時間変化一啓風丸の観測データを使って一
 - ④赤枝健治 (気象研): 梅雨期に観測されたクラウドクラスターの内部構造

- ⑤蒲生 稔 (公資研): つくば地区での shallow cumulus に関する牧歌的研究

⑥コメントと総合討論

(事務局: 吉崎正憲, 坪木和久)

II. 大気-海洋相互作用研究会

- (1) テーマ: J-COARE 計画の現状
- (2) 日時: 1991年10月22日 (秋季大会前日), 16時~18時
- (3) 場所: 名古屋大学水圏科学研究所大会議室 (3階)
- (4) プログラム
 - ①住 明正 (東大気候セ)・竹内謙介 (北大低温研): 各国の TOGA-COARE 計画の現状について
 - ②上田 博 (北大理): 熱帯赤道域におけるドップラーレーダーを用いた観測
 - ③高橋 劭 (九大理): 熱帯赤道域におけるビデオゾンデを用いた雲物理観測
- (5) その他: 今回はメソ気象研究会と連続して開催いたしますので, J-COARE 計画でメソ気象に関する研究を中心に話題を選びました。メソ気象関係者で J-COARE 計画に関心をお持ちの方は積極的にご参加下さい。(事務局: 藤谷徳之助, 中沢哲夫)